

2020,9,26

余呉トレイル

三方ヶ岳トレッキング

お天気予報がコロコロ変わり、今日は久しぶりに雨カッパの出番。先ず、登山口は私有地のため、地主さんをお願いし車を止めさせていただきました。「トイレを使ってください」とご親切に。みなさん「御親切な方ね・・・」と。綺麗な雑木林を散策し、自然観察・きのこ収穫体験・眺望（午前中は、小雨のため見えなかった）下山時、琵琶湖方面の景色を楽しみました。高低差はあまりなく、ゆっくり散策、下草が生え二次林が有りのモデルケースのような綺麗な里山の自然を楽しみました。「紅葉の時も良いね、綺麗でしょうね・・・」と会話も弾みました。下見の時無かったので、山頂では三方ヶ岳の看板（持参）をつけました。下山して、地主さんにお礼を言って帰りました。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日でした。

◆自然観察



マムシグサ



ヤマジノホトトギス



カエル



熊の爪跡



奇木 1



カエル



鹿の仕業 ①



綺麗な里山の樹林①



②



鹿の仕業②



奇木 2



奇木 3



キクラゲ



ヤマジノホトトギス



ゴンズイ

◆トレッキングの様子



登山口



電波塔



孫持山山頂



三等三角点

[次ページへ](#)



幻想的



ウスヒラダケの収穫



三方ヶ岳600mの
看板を持参、つける。



山頂にて記念撮影



綺麗な樹里を行く



ウスヒラダケの収穫体験



琵琶湖方面の景色を楽しむ



電波塔まで帰る

◆歴史



芭蕉翁と西村家

西村家は遠く村上源氏の出。この峠を開拓。ここ北陸街道の要所に問屋を営んだ旧家である。芭蕉とのゆかりが深い。

- 一、おくのほそ道素竜本を秘蔵（国重文）
- 一、芭蕉翁松風塚と名園 松風の落葉か水の音すゝし
- 一、蕉風に心酔した俳人 当家十世野鶴 十三世自得が出た
- 一、峠の要路 旧塩津街道の一部を残す

新道野越えを開いた西村孫兵衛の名を冠する茶屋、店内に芭蕉の「奥の細道」など10代目西村野鶴の遺品が展示されている。

参考メモ 三方ヶ岳の意味は、日本海・余呉湖・琵琶湖が見えるからだそうです。